

全国協議会 ニュース

2013年8月1日発行
第254号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒101-0031 東京都
千代田区東神田1-3-4
KTビル3F
TEL.(03)5823-6360
FAX.(03)5823-6365
発行責任者:野村正満
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

新任です。よろしく！

2014年度までの2年間の新体制が、スタートしました。7月21日には初の理事会を開き、役割分担などを決めるなど、全国協議会活動のさらなる充実・発展に向けて役員一同、決意を新たにいたしました。今号では、新任メンバーに自己紹介をお願いしました。次号以降に、再任メンバーが登場します。



理事長
野村正満

12年ぶりになるのでしょうか、再び理事長の重任を仰せつかることになりました。任意団体だった全国協議会の運営委員長から、NPOとして法人化へ組織変革した際に初代理事長を命ぜられたこのボランティア団体に対して、今、どこか落ち着いてきた気持ちで、懐かしい居心地の良さを感じています。

とはいえ、私たちが取り巻く環境はこの間に大きく様相を変貌させています。骨髄バンク事業もさい帯血バンク事業も法制化によって、発足以来初めての大きな転換点を迎える、今は法施行に向けた激動の時を迎えています。私たちの組織は先輩たちのご努力で認定NPOとなり、より厳格な運営と管理が求められるようになりまし。そして、昔から変わらぬ余裕のない財政状況、ボランティアたちは確実に高齢化が進み、世代交代は十分ではありません。再び私の出番となったことがその

表れだろうとも認識していません。

とにかく、やらねばならぬ課題は山積しています。ここまでの状況を継続するとすれば、私たちの組織も日本の骨髄バンク運動も先細りは避けられない、という危機感を抱いています。そんな状況を打破して、全国協議会を一度むけた姿にしていきたい。これまでとは違う組織運営をしていく覚悟をしています。新たに仲田順和会長を迎えて、大きなお力をいただけることになりました。また、新たな

理事会の顔ぶれとともに、皆さまのご理解を頂戴できま。よう、粉砕砕身、努力を惜しまずに邁進してまいります。



副理事長
田中重勝

骨髄バンクのボランティアは、1989年に東海骨髄バンクを介して骨髄提供したのが始まりです。その後、骨髄移植推進財団が設立されたのを機に岐阜骨髄献血希望者を募る会を立ち上げ、全国協議



理事
田中雄一郎

る「原点に返る」に基づき、過去の協議会歴史の総括をし、真摯に反省すべきことは反省し、公的組織では成し得ない国民一人ひとりまで届くような活動を、協議会非加盟ボランティア団体も含めた関係各機関と、「いい協力関係」を保ちながら、最終目標である「患者救済」を見失わず、真に信頼される協議会を目指していきたいと思。います。

新たに理事に就任させていただきます。田中雄一郎です。6年前にご縁があつて骨髄バンクを支援する山口の会に参加させていただき、現在事務局長を務めさせていただいています。

本業は専門学校YICグループ(山口7校、京都3校の専門学校運営)において、留学生の募集業務のためアジア諸国(中国、韓国、台湾、ベトナムなど)、国内(関西、福岡など)を定期的に訪問しています。趣味は映画、水泳、美術館巡り、そして阪神タイガース応援です。出張が多いのですが、理事会には出席したいと考えています。



副理事長
北折健次郎

副理事長に就任した北折です。私は協議会関係の役員では発当初のきち子基金の運営委員になって以来であり、直接協議会運営に携わるのは初めてです。至らない点があるかとは思いますがよろしくお願。いいたします。



理事
野澤明男

今期、初めて理事を務めます。私は19歳で急性リンパ性白血病にかかり、21歳で骨髄バンクを介した移植を受けた34歳です。元々、私は骨髄バンクが嫌いでした。ことあるごとに請求書を送ってくるお役所という印象しかなかったのです。移植から5年後、母がバンクに寄付をしようと言いました。私は、どうしてまた払うのか?と思。いながら、二人で財団を訪ねました。

それから、私はそこに興味を持ち、ボランティアとして出入りするようになりました。そして、全国協議会を含め、骨髄バンクに関わる多くの人たちの熱意に触れてきました。同時に、熱意の結晶である寄付が本当に患者のために使われているのか?という疑問も忘れてはいません。患者の視点から、患者のためになる活動をしてい。きたいと思。います。よろしくお願。いします。

骨髄バンク活動に関わるきっかけは様々ですが、私がかつて姉が成人T細胞性白血病を患った際にドナーになりました。姉はその後再発し、2回目の移植は骨髄バンクから提供されました。



理事
枝雄

それだけならバンク活動に関わらなかつたと思。います。が、その後の2006年のこと、今度は私自身が同じ病を発症してしまい、骨髄バンクに患者登録し、幸い半年後に骨髄

移植の機会を与えていただきました。つまり姉弟で骨髄バンクからドナーを提供いただき、私自身はドナーと患者の両方を経験したことになります。

今は、「生かされている」感謝と、何かお返しをの使命感があります。福岡リボンの会の会員でもあり、体験からの患者目線を忘れず、骨髄バンクが患者の勇気、希望になればと願。っています。

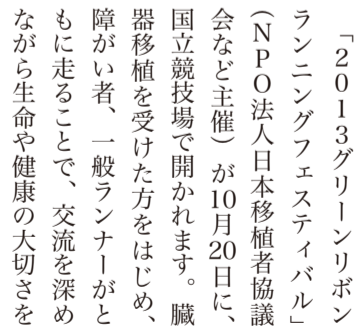


事務局長
中島允久

事務局体制強化の一環として設置された常勤の事務局長に就任しました。「中島? 誰だい? 写真には見覚えが...」。そう、長らくペンネームで執筆を続けていた「遠藤允」です。事務局長職に注力する意味でも、ペンネームは当分の間凍結し、本名で勤務することにしました。

ここ数年、個人的な事情で造血細胞バンク活動とは離れておりましたが、かつては同居の義父が骨髄異形成症候群となりながら、当時の年齢条件に合わず移植対象から外れた「元患者家族」でもあった「元患者家族」でもある「患者さん本位」を貫くべく、必要とされるあ。い。だ。は協議会がさらに発展・充実するよう事務局業務に取り組み覚悟です。

東京五輪の「思い出」に国立競技場へ集合！ ランナーとボランティア募集



フェスティバルのゴール風景

「2013グリーンリボンランニングフェスティバル」(NPO法人日本移植者協議会など主催)が10月20日に、国立競技場で開かれます。臓器移植を受けた方をはじめ、障がい者、一般ランナーがともに走ることで、交流を深めながら生命や健康の大切さを

知ってもら。うイベントです。全国協議会も6回目の参加となりますが、今年もたすきをかけて骨髄バンクをPRしてくれるランナーと、沿道でのほりを持って応援するボランティアを募集します。国立競技場は建て替えとなるため、あの東京オリンピックのメイン会場でのイベントは今年がラストチャンスです!

参加締め切りは、ランナーが8月23日、応援ボランティアが10月11日、いずれも協議会事務局へ。
◇10km部門 10名
◇駅伝(1km×4名)部門 20名(1組4名×5組)

ボランティアの仲間たち

森下 正さん(京都府)の巻



全国協議会の皆様、ご無沙汰です。仲田順和 新会長、府内には4つのボランティア団体とHLA研究所があり、おのおの特色を生かして活動しています。きりんの会は舞鶴市内で、血液センターのご理解と、地域の奉仕団体・献血推進団体の主体的活動、行

よ。ろ。しくお願。いします。京都府内には4つのボランティア団体とHLA研究所があり、おのおの特色を生かして活動しています。きりんの会は舞鶴市内で、血液センターのご理解と、地域の奉仕団体・献血推進団体の主体的活動、行

心からのご寄付に 感謝申し上げます

6月21日~7月20日 (敬称略)

株式会社ハローデイ	現金 1,050,000円
NPO法人サカエ会	現金 10,504円
あおもりチャリティフレーション	現金 100,000円
陽田 秀夫	現金 200,000円
青野 靖之	現金 70,000円
塩谷 泰人	現金 1,000円
黒田 多喜男	現金 10,000円
塩谷 巖	現金 30,000円
鈴木 純子	現金 1,340円
杉本 博一	現金 1,000円
森平 宏	現金 9,791円
匿名	現金 5,000円
●白血病患者支援基金	
モンキーヒル	現金 9,031円
嶋津 桂子	現金 3,000円
小野塚 照直	現金 10,000円
●佐藤さち子患者支援基金	
橋本 ほしみ	現金 5,000円
越田 光重	現金 3,000円
●志村大輔基金	
細井 裕樹	現金 80,000円
匿名	現金 5,000円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

※特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会は国税庁から「認定NPO法人」として認可されていますので、寄付控除の対象となります。

法制化によって何がかわるのか

ご承知の通り、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」(造血細胞移植推進法)が成立し、施行が待たれる段階を迎えています。

全国協議会では、2005年に骨髄バンクの「将来像検討会議」を設置し、07年に答申、08年のボランティアの集いで発表されました。ここで提言した「骨髄バンク・さい帯血バンクの統合」「移植・採取病院のセンター化」は、この法律にも一部が反映され、拠点病院の整備が盛り込まれています。両バンクを統合した造血細胞バンクの設立は、ここでは見通しが立つには至っていませんが、改革の動きが盛んになると思われます。

この法律において特に期待したいのは、支援機関として指定される日本赤十字社の業務に「普及啓発」が挙げられていることです。これまでは、厚生省(当時)保健医療局長の「協力依頼」によって都道府県・指定都市・中核市・政令市・特別区がその任に当たり、実質はボランティア団体が担っていました。

その結果、「骨髄バンク」はAC広告の効果もあって万人の知るところとなっており、ドナー登録を受け付けるのが献血ルームと一部の保健所であることは、一般にはほとんど知られておらず、骨髄提供についても誤解による危険が蔓延しています。これは、自治体とボランティア団体ができる普及啓発活動の限界を示したものであり、日赤が普及啓発に乗り出すことに

大きな期待がもたれます。さらに日赤では、造血幹細胞移植に関する情報の一元管理を想定したポータルサイトの構築に向けての検討を始めています。およそ3年後の運用開始を目指すと言われていますが、造血細胞バンク設立への大きなマイルストーンとなるはずで、ドナー登録がな

かなが増えないのに業を煮やしたボランティアが、緊急避難的に始めたのが「ドナー登録会」ですが、個人情報に触れる大事な任務を「説明員」というボランティア任せにしている危うさが常に心配されてきました。この法律の施行により、われわれボランティアが骨髄バンク設立運動をしてきたときから願っていた、日赤が主体的に普及啓発とドナー登録受け付けを行う時を、間もなく迎えます。

ワールドカフェでグループ討論

6月9日、奈良県天理市で行われた第1回代表者会議は、ワールドカフェという方式をとってグループディスカッション形式で行われました。テーマは、「造血細胞移植推進法」を背景に「これからのボランティア活動について」となりましたが、少人数のグループごとに大きな模造紙を共有のメモ帳にしましたので、その中から主な内容を紹介します。

●財団は変わらないのに業を煮やさない、日赤は各地で協力度ちがう。登録会↓日赤啓発活動↓各自自治体、ボランティアはオプザバーの各自自治体からの相談により、経験者レクチャーする

●ドナー登録会(献血バス併行型+献血ルーム型)の方法は当面継続

●イベント啓発+ドナー登録会(スワップ方法)の新規方式の創設(自治体等との連携)

●ボランティアは広報に特化

●献血教室↓患者が日赤と一緒に、体験談を話す

●ボランティアが献血の呼びかけをせよ、患者のための血液を確保する

●若年者対策↓献血(日赤)の話をする↓高校指導要領に献血がのつた↓日赤を利用して

●人間関係の改善 日赤↓ボランティア 登録説明員は完全にボランティアではない

●登録会はマイナスとは思わない。新しいボランティアメンバー開拓の窓口にもなっている

●日赤業務を侵害しない活動のあり方

●ボランティアが関わったことにより登録者数が伸びた結果を導くには?

●近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

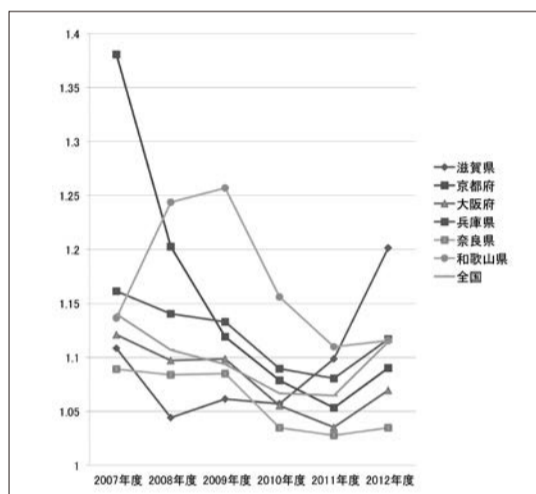
近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

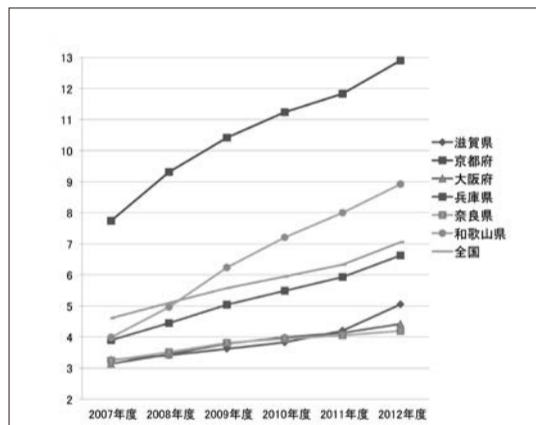
近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が



グラフ1 ドナー登録者数の前年度からの増加率



グラフ2 18～54歳人口千人当たりにおける登録者数 ※グラフ1、2共に中央骨髄データセンターの資料から作図

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が

近畿編です。ドナー登録者の前年度数からの増加率(グラフ1)で注目すべきは、和歌山県でしょう。全国的に08年度から11年度にかけては登録者数の増加率が鈍っているのですが、この時期に和歌山県では拡大傾向を示しています。08年と比べると、年明け早々に当時のドナー登録目標30万人がクリアされましたので、それを区切りとして登録会開催回数が減じたり、登録呼びかけも減らしたため、07年から県が



新潟県加茂市 第2回骨髄バンクチャリティーライブ(音楽がたなぐ命) 7月15日に新潟県加茂市にすけ会館で、骨髄バンクチャリティーライブを開催しました。前日の大雨で、どうなるか心配でしたが、当日は雨も上がりホッといたしました。骨髄バンクの関係者だけでなく、一般の人たちも巻き込んで一緒に企画し、準備することにより関心の持ち方が変わると実感しました。協力してくれている人たちの中にも、骨髄と脊髄とを間違えて理解している人たちが大勢いることなどがわかりました。ホールではパネル展を行い、子どもから大人まで真剣に見ていました。来場者は約200名、ドナー登録説明会では2名の方が説明を聞いてくださり、仲間を白血病患者で亡くした出演者で、骨髄バンクをPRしたいと資料をたくさん持って帰る方がいらつしました。また、パネル展会場では当会の男性会員が扮したピエロも好評で、バックの文字との一体感をも出し出していました。展示は、今後も続けていきたいと思っています。(アサガオの会 高野)

各地のたより 写真を添えてお寄せください。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする 骨髄バンク NOW

(財団マンスリーJMDP(7月12日発行)より抜粋)

- 「日本骨髄バンク」への名称変更

3月の理事会に続き6月24日の評議員会で、名称変更が決議されました。今年10月1日から「公益財団法人 日本骨髄バンク」となります。
- 平成24年度の事業報告と決算報告が可決承認

6月24日に開催の評議員会で、平成24年度事業報告・決算報告が審議、承認されました。事業報告の概要によれば、同年度に財団が仲介した骨髄移植・末梢血幹細胞移植は1338例で、過去最高を更新。新規ドナー登録者は3万8050人で、年度末現在のドナー登録者は42万9677人となりました。決算については、寄付金の大幅減により、経常ベースで1500万円の赤字でした。
- ACの新キャンペーン「キミじゃなきゃ」編スタート

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌では7月から、首都圏の交通広告では8月から展開します。連動したポスターは8月中旬から配布する予定となっています。
- ◆日本骨髄バンクの現状(平成25年6月末現在)

	5月	6月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,622	2,442	433,336	583,419
患者登録者数	262	272	2,859	39,075
移植例数	111	117	-	15,715

 - 6月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,241人 / 20代 71,594人 / 30代 151,876人 / 40代 164,909人 / 50代 41,716人
 - 6月の20歳未満の登録者384人
 - 6月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム / 756人、献血併行型集団登録会 / 1,604人、集団登録会 / 24人、その他 / 58人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。平成24年7月より集計方法が変更されました。

※特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会は国税庁から「認定NPO法人」として認可されていますので、寄付控除の対象となります。